

共同生活で団結確認

他区の仲間30人と同じ民宿で一週間

豊田和男

新潟県柏崎市の清掃工場が、先の中越沖地震で破損し、収集・運搬された廃棄物を焼却することができず、本来、収集したごみを工場に運搬するところを、工場で焼却済みの灰などを埋め立てる最終処分場（東京は海の中に埋め立てるのだが、新潟は山中に埋め立てる）を仮置き場とし、そこを中継所として近隣のさまざまな他自治体の工場に再運搬するという作業形態でした。その車両と作業員が足りないことから、新潟県から東京都に支援の要請があり、文京区をはじめとする各区がその要請に応える形で、車両と職員を派遣したのです。

9月2日（日）～9月9日（日）の期間で、新潟中越沖地震被災地の支援に行っていました。2日（日）と9日（日）は移動に費やし、実際の作業は、9月3日（月）～9月8日（土）の6日間行いました。

柏崎市の作業計画は詳しくわかりませんが、次のような形態で私たちは作業に従事しました。

- ・火、木、土
可燃ごみを収集し、仮置き場（最終処分場）および近隣工場（見附工場）に運搬
- ・月、水、金
仮置き場に積み上げた可燃ごみを近隣工場に運搬

損傷した柏崎清掃工場の代替工場は、近隣自治体の長岡市十日町、魚沼市、見附市、三条市、燕市等の清掃工場です。

9月2日（日）6時30分に文京清掃事務所本所に集合、7時に出発し、飯田橋インターチェンジ

から高速道路に入り、清掃車に作業服を着用で乗車し、そのまま現地向かいました。12時に現地に到着し、集合時間の13時に柏崎クリーンセンターに到着しました。

現地に行く途中、休憩を入れて向かったのですが、さすがに長時間清掃車で移動したので疲れました。

新潟現地での生活について若干述べてみます。

宿泊施設は民宿でした。六畳一間に文京区からの派遣メンバー3名が宿泊しました。文京区を含む都内10区の各3人合計30人が一軒の民宿に宿泊しました。

民宿では、朝食と夕食が出ました。昼食は、出先でのおおの弁当などを購入して食べました。

風呂も民宿に備えてありましたが、近くのホテルのご好意でお風呂を提

礫つぶて

発行責任者 委員長 任
編集責任者 委員 任
教育責任者 委員 任
東京労働文 清組支 掃合部

2007年9月20日
第64号

新潟県 中越沖地震 災害支援 報告特集

供していただきました。

朝6時の朝食後、2分ほど離れた近くの駐車場に移動し、体操をしてから7時に出庫しました。それから、それぞれの車両が、地元（新潟県）の業者と別々に合流して作業の打ち合わせをし、8時から作業を開始しました。

・月・水・金

仮置き場から（見附工場および十日町工場

仮置き場となっている最終処分場で、山積みのごみを収集用の専用の機械で収集車に直接積み込み、私たち作業員は、その収集用専用機械のボタンを操作しました。

・火・木・土

1台目 仮置き場
2台目 清掃工場
（各区各車両それぞれ）
文京区は

火―見附清掃工場、
月・土―十日町工場

文京区および新宿区の作業は本来、現地の業者（柏崎市の収集作業はすべて民間委託業者）と一人ずつ乗り変わって作業するところを（たとえば、文京区の直営車に文京区の運転手と作業員、柏崎市の作業員、柏崎市の清

掃車両に、柏崎市の運転手と作業員、文京区の作業員など）、現地の作業員の手配がつかないこともあり、作業エリアの地図を渡され、文京区（および新宿区）のメンバーのみでの作業となりました。

こちらでいうところのサーマル実施後の「新可燃」ごみと同様の可燃ごみ収集のみを、火・木・土に行いました。柏崎市の収集作業は、集積所の間隔がかなり離れていて、おまけに地図を見ながらの作業だったので、1台積み上げるのに1時間以上もかかりました。

月・水・金には、最終処分場を転用した仮置き場にそれぞれの収集車が集結して、順々に（遠い工場や、新大型車など優先で）積んでいたのので、文京区は、他よりは近い工場だったので、後の方の積み込みとなりました。そういうこともあり、収集車両に積み込むだけだったのですが、8時作業開始で、約2時間後の10時過ぎにようやく仮置き場から出発できました。

現地・柏崎市の集積所について少し説明します。

集積所には、木製が鉄製のボックスが、それぞれ一個だったりあるいは二個三個だったりときまざりましたが、必ず設置されていました。反対に、東京ではほとんどの集積所にあるような看板が、現地の集積所にはまったくありませんでした。

新潟県中越沖地震レポート

震災支援で貴重な体験

佐藤浩

私たちが現地で収集したのは、火・木・土の可燃ごみで、それ以外の不燃ごみ・資源ごみ収集については、私たちはノータッチでした。

それでは最後に、個人的な感想を申し上げて終わりにしたいと思います。東京都の10区の清掃事務所から派遣された30人での団体生活を同じ民宿

で7泊にわたって過ごして団結を深め、支援活動に従事したのは、非常に貴重な体験でした。

また、同じ職場の仲間とはいえ、やはり7泊もの期間、六畳一間で、一緒に文字通り寝食をともにして生活し、働いたのは、めったに経験することのできない貴重な体験でした。

新潟県中越沖地震発生から一ヶ月後の被災地支援です。倒壊した家の撤去、道路の修復は終わっていると思っていました。たしかに、市街地の道路のひび割れ等は整備されていました。海岸沿いは、ひび割れ、片側通行など、まだまだここからの復旧かなと思います。

ました。民家も、古い瓦屋根の瓦は、ずれたようで、ブルーシートで覆われた家が多く目に付きました。はじめて見た実際の仮設住宅は、寂しげな集落に映りました。

運転業務は、1日平均、180kmくらいでした。月・水・金は、最終処分場から近隣市の清掃工場

に1回搬入。火・木・土は、一般家庭ごみを1〜2回収集した後、最終搬入を、近隣市の清掃工場に搬入しました。

毎回、ごみを限界まで積み込むので、車両は重くなり不安定な上、最終処分場および近隣市の清掃工場までは、山道を走行しなければなりません。

道路には信号もなく空いているので、たびたび後ろに車両が数珠繋ぎになり、自分の車を止め道を譲ることを繰り返しながらの走行でした。

国道および市街地の道路は、無理やり修復されているので、橋のつなぎ目、マンホールの突起で、デコボコでした。運転手はのんびり走行で楽なのですが、収集職員2名はかなり苦痛のようでした。ごみ収集作業に関する東京23区の支援活動はいつたん終了しましたが、随

中越沖地震支援活動に参加して

多くの皆さんに感謝

佐藤国明

今回の作業の性格上、長距離の運搬がメインだったので、その負担はかなりのものだったと感じました。そうした中、安全運転に徹し、デコボコ道も気遣って走っていただき、とても助かりました。運転手がいちばん大変だったと思います。

様々な準備をしてくださった事務所や区役所の皆さん、私たちが不在の一週間、現場で、台風直撃などの中、がんばってくださった仲間の皆さん、そして何より一緒に行った豊田和男さん、佐藤浩さん、本当にありがとうございました。

時、他の自治体が支援に駆けつけるそうです。

柏崎市の清掃工場は、11月中旬の稼働を目指しています。しかし復旧工事が終わるまでは、各自治体の支援が必要だと感じました。

今回、支援活動に参加させていただき、多くの物を見て感じてきました。まだ興奮しているようですが、この貴重な体験を少しずつでもお伝えできれば良いと思っています。

参 考 資 料

東京都 報道発表資料
「2007年8月掲載」

新潟中越沖地震に伴う東京都の支援について（第20報）

（特別区による廃棄物処理の支援について）

平成19年8月24日

環境局
総務局

平成19年7月16日に発生した新潟県中越沖地震に伴い、被災市町村では排出される廃棄物の処理に大きな支障をきたしています。

この度、新潟県から都に対し、廃棄物処理について特別区から支援を受けたい旨の要請があり、特別区と調整を行った結果、以下のとおり、特別区が支援を行うこととなりましたので、お知らせします。

また、国分寺市及び多摩市並びに東京廃棄物事業協同組合においても、裏面のとおり廃棄物処理

の支援を実施しており、併せてお知らせします。

1 支援先

新潟県柏崎市

2 支援期間

平成19年8月27日（月）から9月8日（土）まで

3 支援内容

廃棄物の収集・運搬（清掃車両及び職員の派遣）

4 支援規模

特別区清掃車両

（パッカー車）延べ19台

特別区職員 延べ72人

この他に、（社）東京環境保全協会（請負業者）から清掃車両（パッカー車）1台の派遣協力あり。

※詳細については、別紙のとおり

○国分寺市による廃棄物

処理支援の実施状況

（平成19年8月24日現在）

支援先 支援期間

内容

柏崎市 7月27日（金）から8月11日（土）まで

（1班当たり3泊4日派遣）廃棄物の収集・運搬車両

パッカー車 2台

ダンブ車 1台

人員 8人×5班

○多摩市による廃棄物処理支援の実施状況

（平成19年8月24日現在）

支援先 支援期間

内容

柏崎市 8月6日（月）から8月11日（土）まで

8月20日（月）から8月25日（土）まで

8月27日（月）から9月1日（土）まで

（1班当たり1週間派遣）廃棄物の収集・運搬車両

パッカー車

（委託業者車両）2台

ダンブ車

（多摩市車両）1台

人員
多摩市職員 3人
委託業者 4人
計7人×3班

○東京廃棄物事業協同組合による廃棄物処理支援の実施状況

（平成19年8月24日現在）

支援先 支援期間

内容

柏崎市 8月13日（月）から8月26日（日）まで

廃棄物の収集・運搬車両

パッカー車 延べ87台・日

人員 延べ108人・日

問い合わせ先
環境局廃棄物対策部一般廃棄物対策課

電話 03-5388-3581

〔別紙〕

平成19年8月24日

特別区長会
新潟県中越沖地震 県の要請を受け、特別区が清掃車と職員を派遣

24日、特別区は、新潟県中越沖地震で被害のあった同県柏崎市に清掃車と職員を派遣することに決めた。被災地では、震災に伴って発生した大量のごみ処理に頭を悩ませて

いる。16日、新潟県知事から東京都知事を通して、特別区長会に対し、柏崎市への清掃車両等の派遣要請があり、これに応える形となった。

7月16日に発生した新潟県中越沖地震に伴い、被災地では大量のごみが発生し、その処理に支障をきたしている。特に、柏崎市では、清掃工場が損傷してごみ処理に困難を極めていているという。

そこで新潟県の泉田裕彦知事は、東京都の石原慎太郎知事を通して、特別区長会に対し、災害ごみの処理について支援を求めると要請を行った。特別区ではこれを受けて、特別区清掃リサイクル主管課長会を中心に各区から派遣する清掃車両と人員の調査を行うことにした。

調査の結果、多数の区から協力の申し出があり、現地と調整した上で、各区から延べ清掃車等26台（小型プレス車15台、新大型特殊車4台、連絡車7台）と職員72名を派遣

することに決定した。また、特別区より清掃事業の収集・運搬を請け負っている（社）東京環境保全協会からも協力が得られ、清掃車（新大型特殊車）1台を派遣することになった。

現地での支援作業は27日（月）から9月8日（土）までの2週間で、派遣は前半と後半に分け、前半組は26日に出発し9月2日まで、後半組は2日に交代の車両と職員を派遣し8日まで支援を行った後、9日に帰還する。

派遣先の柏崎市では、主に家庭から出された可燃ごみを集積所から収集し、仮置き場まで運搬する作業を行うとともに、柏崎市の清掃工場が損傷して稼働していないことから、仮置き場から県内の他自治体の清掃工場に運搬するという作業に従事する予定である。